

拝啓

日ごとに暖かとも増し、木々の緑は一段と深緑と
競いあがり、いよいよ夏到来を感じさせる今日北風の
じじいさす。

御社におかれましては 増々御繁栄の勢を推察
し功喜び申し上げます。

私、[REDACTED] (68歳) と申します。

3年前から妻([REDACTED] 66歳) が大腸がんを札幌厚生病
院より入院、治療を受けました。この間、肝臓の
の転移、肺への転移、甲状腺がんとの月ごとに手術を施行
し、あきらめてまで大気になり日常生活に戻りました。
昨年11月7日、定期検診にて白血病(急性骨髄状白血病)
と診断され即日入院し治療に入りました。

寛解導入療法で無事、完全寛解となり、本年(25年)1月
から地固め療法を始め、1回目は特異な副作用
もなく終了し2回目の地固め療法に入りました。

白血球、血小板の数値は上昇せず、血小板輸血を4度
試みましたが結果は同じです。その後、下血、鼻出血等の副作
用があらはれ、担当医が妻と同じ血小板の型を持つ人から
の輸血が必要と判断され、血液センターにお預けし
ていただきました。血液型(妻はA型、献血者はO型)は違いますが、

型は同じだからと、その方からいただいた貴重血小板を輸血していただきました。

輸血後2時間後には出血も止まり血小板数も上昇し安堵致しました。その時、もし脳出血でも起こしたら……ほど不安な気持ちの毎日でした。私は[]に住んでいます。妻のそばに常についてやる事出来ず、毎日夜9時過ぎからの妻の報告コールの声を妻の様子を知ることができたので、輸血後、妻の事が日、1日と明るく取り戻し元気に帰ってくれた事は、担当医、看護師さん、医療に必ず関わった皆様にそろさんの事、全く知らぬ方が妻のために献血をしてくださった事に本当に感謝すると同時に妻の命を救ってくれたその方の心へ、人肉としてどうあるべきかと学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

今、家族3人が談笑しながら、一緒に夕食を食べている幸福を痛切に感念しております。今回の妻の闘病生活、家族の絆の大切さ、人の心の暖かさ、医療現場の急速な進歩等々、学ばせていただいた事が多くあります。妻が発病し無事治療が終えて普通の生活に戻った今、健康な人達や経験豊富な事を私達に経験できた事に感謝する気持ち一杯です。

残念ながら私達家族は、3人を大病して献血した状況にありません。私達家族が今おられる事は周りの人達から声かけをし、献血の大切を助けてもらう事

から始めたいと思っています。 血 どの血が 妻に献血
をして小犬養忠の方、そして日々活動していただいている
血液センターの皆様への御恩に報いる事だと思っています。

最後に「ありがとうございます。 何となくのいい文章に。 意味不明で
笑が止まらぬと思っておりますが永遠家族()
の心からなるお礼と感謝の気持ち伝わっていただければ
いいと思います。 パンを運かせていただきます。
本当に、本当にありがとうございます。

啓典

2015. 7. 10

住所

電話 午前9時から午後5時

午後6時から

携帯